

# 第1回 緑が丘中学校区地域部会 意見のまとめ

開催日：平成30年10月17日

会場：緑が丘中学校

## 1 今後の統合案について

- 志染中学校と緑が丘中学校を統合するのであれば、新しい学校を一緒に創ろう、一緒にスタートしようという思いであるべきである。
- 緑が丘地域や青山地域の方と目の前の課題と感じている志染地域の方とでは、学校再編について温度差がある。これからしっかりと話し合っていく必要がある。
- 子どもはすぐに溶け込んでいけると思うが、ケアはしっかりとする必要がある。保護者の方はとても不安だと思う。どうしていくのかをしっかりと、説明していくことが必要である。
- 吸収されるというような言葉で、子どもの心にひずみを持たせてはいけない。それを無くしていくのは、大人の役割だ。
- 統合するとなった時に、どう準備して、どうケアしていくかを考えることが大切だと思う。
- 校区が広くなると、中学校は通学の面で自転車やバスで大丈夫だと思うが、小学校となると心配がある。
- 同じ生活圏と言う観点では、自由中学校、緑が丘中学校、志染中学校区について大きなくくりや視点で、一緒に考えることも必要である。
- もともとは志染地区であったところに自由が丘、緑が丘ができたという経緯がある。御坂神社の祭りなどオープンにして、皆が集えるものにしてはどうか。
- 志染小学校、中学校は創立から長い歴史がある。地域性もあり、地域の繋がりが強い。当然、抵抗感はあるだろう。
- 高校へ行けば自転車などで遠方へ通うことが多い。年齢のことは当然あるが、中学生が自転車で通学することは可能だと思う。

## 2 三木市の学校再編に係る全体案

- 小中一緒にいろいろな活動するのはプラスの面が多い。年上の子は小さい子に優しくなれるだろう。そうすることで、自分の居場所ができていく子もいる。
- 縦の人間関係があると、兄弟がいなかったとしても、面倒見の良さや人間力を育む上では効果的である。
- 施設一体型の小中一貫校となっているが、規模がどの程度になるのかが気になる。給食もそこで作れるようになるのは良い。新しい施設をつくることは良い。
- PTAも一つになるので、親としてはメリットがある。
- 小中一貫になると、卒業式が一回になるのはありがたい。しかし、節目は大切にする必要がある。

○免許の関係で先生は大変そうだ。

○小中一貫校への再編は慎重に検討するべきである。人数が増えれば、きめ細やかな指導ができなくなり、先生の負担や子どもへの影響について心配もある。

○多い人数の教育がすべて良いというわけではない。多くなることの心配な面もある。

○私自身が通っていた学校は5、6校が統合になった。皆が通いやすい中央に学校を建てるなどを考えてもらえたら、良いかもしれない。

○部活動の存在は大事だと思う。〇〇部の有り無しなどで学校を選択できるようにしてはどうだろうか。

### 3 小学校と中学校の連携

○今は、トライやるウィークや中学校の教師が小学校に来て授業を行う「出前授業」、中学校への入学前に見学や部活動の体験を行う「体験入学」などを実施しており、子どもが安心して進学できるようになった。

○トライやるウィーク時に小学校に来てくれた生徒が、中学校の授業や先生の話などをしてくれる。来週には、中学校の陸上部員が小学校にコーチに来てくれる。緑が丘中校区は進んで小中連携の取組をしている。

### 4 緑が丘中学校区周辺の課題

○緑が丘、青山も高齢化の町になっている。町の再生の道のりは厳しいが、今から手を打っていけば間に合うところもある。

○緑が丘地区は、子どもが集える場所づくりなどに積極的に取り組んでいる。青山公民館では、ロビーで子どもたちが勉強したり、遊んだりしていい雰囲気がある。このようなスペースで、もっと大きいものを作れば、アフタースクールとしても使える。緑が丘、青山、志染の子ども皆が使えるようにしたらいい。

### 5 その他全般

○三木市には児童館などが少ない。他府県の例を見ると、年配の方が集っている横で、子どもたちが自分で勉強しているような空間がある。他地区から来られた方には、家庭の周辺で遊ばせる場所がないと感じている。田園地帯の中に、デイサービスや集える場所などを作ったらいい。

○他市から三木の田舎に移住してくださいと言いつつ、学校が無いでは矛盾がある。しっかりと学校で学べる手立ても考えなければならない。

○学校再編は、人数が減ることが前提で進んでいるが、人口増や町のにぎわいを創る都市計画などはないのか。

○人口増加策や都市の団地再生プログラムにも積極的に取り組む必要がある。行政が頑張らないといけない。市政懇談などで相談していく必要がある。